

# 風土記の丘の花だより<sup>107</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2021年10月23日)

急に冷え込んだのでビックリしました。みな様には体調管理にご留意ください。園内のハギもほとんど散り果て、季節の移り変わりを感じます。今は、花も虫も少なく、もの悲しくもある季節です。でも花を探しながらの散歩も楽しいものです。



まっ黄色の花、ツワブキがあちらこちらで咲いています。花の少ないこの季節に存在感のある花を咲かせます。変異が出やすいらしく、自生のものの他に、葉に斑の入ったものや、八重咲きのものなど色々な園芸品種があります。万葉植物園には八重咲きも何株か植えられています。「ツワ」は葉の「艶・つや」や、葉が厚いので「厚葉・あつは」の「つは」などが語源とされています。



木に巻き付いたタンキリマメ「痰切り豆」にきれいな実がなっています。鞘がはじけて、中から2つの黒い豆が顔を出しています。赤と黒のコントラストが実にきれいです。のど飴が無い時代には。この豆を煎じて喉のイガイガを癒していたのでしょうか。よく似たものにトキリマメ「吐切り豆」がありますが、同じく、吐き気を治めたのかも知れませんね。



ほぼ一年中咲いているオニタビラコの花です。ところが最近、この草をさらに細かく分類して、アオとアカに分ける人も出てきました。花茎に毛が少なく、同じような長さのものを何本も立ち上げるのがアオ、花茎が茶色っぽく多毛で、太い花茎を1本と、それより短い花茎を1, 2本立ち上げるのがアカです。青鬼か赤鬼か、「どっちゃでもエエ」と思いますけどね。



旧小早川家住宅の西斜面に大きな木が3本ほど植えられています。トガサワラです。紀伊半島南部と四国の一部にだけ生える珍しい針葉樹です。今、この木に「まつぼっくり」ならぬ「トガワサワぼっくり？」がなっています。下からではちょっと見えにくいですがね。また双眼鏡でゆっくりご覧ください。 松下